

平成 20 年度 産業技術連携推進会議ライフサイエンス部会

第 4 回デザイン分科会・第 2 回研究発表会

平成 20 年 1 月 7 日（金） 13 時 30 分～18 時 0 0 分

インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー 5 階

主催：産業技術連携推進会議ライフサイエンス部会デザイン分科会

独立行政法人 産業技術総合研究所

協力：財団法人 日本産業デザイン振興会

会議概要

開会

挨拶

- ・ デザイン分科会長（北海道立工業試験場デザイン開発科長）及川雅稔氏
本年度より 2 年間、分科会長を務めることになっている。デザイン分科会は年に春・秋の 2 回開催として、89 回の実施に至っている。今回の秋の開催は、千葉県産業支援技術研究所が日本産業デザイン振興会の協力を得ての開催運営となる。また、昨年度の秋の開催より参加者が多く、40 名となっている。多くの機関の参加により、積極的な情報交換を行ってほしい。
- ・ 千葉県産業支援技術研究所長 三戸茂氏
国の関係機関、全国の研究機関のご参集に感謝申し上げます。千葉県では昨年度から「ちば・戦略的デザイン活用塾」事業に取り組み始めている。県の事業運営の参考とするため、今後の情報提供などに是非ご協力をお願いしたい。
- ・ (独)産業技術総合研究所 橋本亮一氏
本年度からデザイン分科会副部会長を務めている。昨年からの景気悪化により、デザイン業界も影響を受けていると聞く。デザイン業界が景気に対してむしろ好刺激を与えられることを望む。世の中、依然「お金持ちのための」デザインが当たり前のようにとらえられているが、より一般ユーザー向けのデザインが進むことを願う。（たとえば、立食パーティ時にカップと皿を持ちながら常に片手があくようにするためのデザインなど）産業発展に寄与するきっかけとなるような研究成果が本分科会発表から生まれることを期待する。

- ・ (財)日本産業デザイン振興会 蘆澤雄亮氏
 昨日、弊会の主催する G マーク大賞の選出が行われ、TOYOTA の IQ (超高効率パッケージカー) が受賞した。G マーク受賞作品の展示が隣のスペースで行われている。本年度で 52 年目を迎える事業で、昨年度 51 回から新たな試みへ取り組んでおり、詳細は本日の基調講演にて青木常務理事より説明する予定である。振興事業部という部署の廃止後に (六本木に) 設置された国際・デザイン・リエゾンセンターを拠点とし、今後は地域とのつながりを作っていく予定である。
- ・ 工芸財団理事 堀田明裕氏
 昨年度大学を退任して財団理事となった。各県の工芸産業を支援するのが財団の目的。今後、財団の活動をさらに振興させていくことに力を尽くしていきたい。ニーズによって、マーケティングや材料、その他財団の支援分野も高度に広がっている。方法論と学術論の両面で支援をしていきたい。

*各機関より配布資料説明

- ・ 千葉県商工労働部産業振興課 仁平貴子氏
 千葉県より「ちば・戦略的デザイン活用塾」の 19 年度プログラム実施報告書を配布の上、簡単な説明を行った。

挨拶及び事業報告

「感性価値創造イヤーの展開」

- ・ 横山 康之 | 経済産業省製造産業局デザイン・人間生活システム政策室
 感性価値とは：作り手と使い手の間で共創するものとしての感性価値。感性価値創造イヤーの取組み紹介：感性価値創造フェアの開催 (海外、国内での開催予定の紹介)、感性価値創造バンクの開設 (製造者に資するものとして、報告書や事例映像、シンポジウム等による情報プラットフォームの構築)、KANSEI カフェの開設 (聴衆との意思疎通を基調とした情報交流)

「意匠出願戦略ガイドについて」

- ・ 本多 誠一 | 特許庁審査業務部産業機器 上席審査長
- ・ 佐藤 英二 | 創英知的財産研究所 (創英国際特許事務所)
 [本多氏] この度、創英知的財産研究所により「意匠出願戦略ガイド」を作成した。研究活動に勤しむ公設試験場等の研究者、また広く企業に活用してもらえることを願う。
 [佐藤氏] 昨年 5 月に作成したもので、知的財産の扱いに関する基本概念をまとめてい

る。企業へのガイダンスとして活用できる内容。これを活用した「出前セミナー」事業を開始したので、併せて活用いただきたい。

「キッズデザイン賞事業について」

- ・ 上田俊彦 | 特定非営利活動法人 キッズデザイン協議会 事務局長
配付資料を基に事業概要を紹介。

研究発表の部 1

【地域資源を活用したデザインの試み】

木製玩具のデザイン開発-PR デザイン開発事業-

- ・ 工藤洋司 | 青森県工業技術センター 弘前地域技術研究所

染色ひのき材を用いた商品開発に関する研究

- ・ 多々良哲也 | 静岡県工業技術研究所

座り心地の良い椅子の開発と地域ブランド振興

- ・ 成瀬哲哉 | 岐阜県生活技術研究所

箸補助具の製品化研究

- ・ 大久保裕生 | 福井県工業技術センター

・

研究発表の部 2

【地域発のデザイン振興事例】

旭川デザインマンス事業

- ・ 山田克己 | 旭川工芸センター 所長

京都の伝統工芸を学ぶための教材の開発

- ・ 福岡 崇 | 京都府中小企業技術センター

ビジネスマッチングブログの構築・運営に関する研究

- ・ 西村睦夫 | 大阪府産業デザインセンター

沖縄デザイン戦略構築促進事業

- ・ 大城直也 | 沖縄県商工振興課 工芸技術支援センター

研究発表の部 3

【地域発のデザイン研究事例】

製品コンセプト設計支援技術に関する研究

- ・ 日高青志 | 北海道立工業試験場

関節駆動型マネキンの開発

- ・ 後藤泰徳 | 兵庫県立工業技術センター

自然現象に基づくインタフェースデザインに関する調査

- ・ 平田一郎 | 兵庫県立工業技術センター

自動車用シートの座り心地評価方法の検討

- ・ 石川弘之 | 福岡県工業技術センター インテリア研究所

特別講演

「パラダイムシフトとデザインプロモーションの課題」

- ・ 青木史郎 | 財団法人 日本産業デザイン振興会 常務理事

デザインの立脚点が、サプライサイドである企業側からからデマンドサイドである消費者側へ力関係がシフトしている。サプライサイドのプロモーションは各企業からの優れたデザインを紹介すればよかったが、デマンドサイド側に立脚することで、事業展開が多様化し、デザインを取り巻く様々なイメージを展開しながら、製品、デザイナーによる様々なイベント、プロモーション等の事業展開を行っている。事業側としては難しい側面が多いが、マーケットは広く、試行錯誤で今後も展開を続ける。

次期開催に関して、他

- ・ 及川雅稔 | デザイン分科会長

春の分科会は愛知県で7月2, 3日を予定。秋の研究発表会は山梨県が幹事県となり、担当者の挨拶があった。

閉会